

小野田・厚狭郡医師会 女性医師の会第4回総会

この会も今年で4回目を迎えました。山口県医師会が、男女共同参画事業の一環として、支援の情報を伝えるために、山口県内に女性医師のネットワークを作りました。その一つがこの会です。他の県内の会とは違って、二つの医師会の支援を受けて合同の会として開催しています。また、両医師会の会員であるかどうかにかかわらず両医師会内の医療機関に勤務するすべての女性医師を強制的に、本人の意思にかかわらず会員にしてしまいます。いまのところ苦情はなく、研修医の先生など若い先生方にも参加していただいています。

今年は平成27年6月26日（金）にソル・ポニエンテにて小野田・厚狭郡医師会女性医師の会第4回総会が開催されました。毎回「おいしいものを楽しく食べよう」がこの会の大きな目的です。第2回総会と同じ場所でしたが、今回は趣向を変えて2階で総会を行い、1階で懇親会を行いました。どちらも眺めがすばらしく、時間とともに少しずつ空の色が変わってゆくのを楽しめる会場です。

参加者は労災病院の研修医1名その他女医13名を含めて総勢20名でした。お子様を連れての参加者が2名あり、山口県医師会保育サポーターバンクから保育サポーターの方をお願いいたしました。子ども達は夕暮れまで散歩をし、そのあとは二階の別室で遊んだり食事を取ったりしてすっかり仲良しになったようです。

総会は19:00から開催されました。まず小野田医師会西村公一会長より御挨拶をいただき、続いて厚狭郡医師会河村芳高会長にも御挨拶をお願いいたしました。次にこの会の会長である西岡和恵先生から2014年の活動報告と会計報告が行われました。また、会員の移動に伴う役員変更の報告もありました。勤務医代表並びに山口労災病院責任者兼務に戒能



西村会長



河村会長



長澤副会長



黒川教授



山本院長



水田院長



寺井先生



西岡先生



藤田先生

美雪先生、山陽小野田市民病院責任者に藤田麻美先生、それに伴い監事に戒能先生の後任として佐伯真理子先生をお願いすることになりました。続いて佐伯真理子先生から会計監査報告が行われ承認されました。その後、今回初めて出席して頂いた小野田赤十字病院の水田英司院長にお話をいただきました。今回医師が2名増員され、今後は一層精力的に手術に取り組みたいと熱く抱負を語られました。

次に特別講演が行われました。山陽小野田市民病院山本智久先生による「新築された山陽小野田市民病院紹介とあさひ保育園の運営状況」についてでした。新病院はCasbeeによる建築物の総合環境性能評価でSランク（最高ランク）の認証をうけ、環境を考慮した未来型の病院になっているそうです。またあさひ保育園は通常は7時～19時、水曜は夜間保育（19時～翌朝7時）が実施されています。

定員は25名。現在は5名でまだまだ余裕があるそうです。保育料は基本25,000円、一時保育は日額2,500円、3人同時なら3人目以降は無料です。市内の医療機関に勤めている医療従事者ならどなたでも預けることができ、料金は安く設定されていますので、ぜひ利用して欲しいとお話でした。あさひ保育園の設置には当初反対意見が多くて説得するのに大変な御苦労をされたとのことでした。山本院長のご尽力のおかげでやっと夜間保育を含めて設置されることになったのですが、その熱意の裏には山本院長の秘話がありました。実は山本院長は奥様を亡くされて、ご自身が一人で子育てをされたそうです。お子様の希望を尊重して、実家にもどらず、親子2人で今までどおりの生活を続け、毎日子どものお弁当を作られたそうです。医師の仕事をあたりまえに続けながら、一人でする慣れない子育ての大変さを想像すると、おもわず泣きそうになりました。子育ての大変さを体験されているからこそ、なんとしても夜間保育のある保育園を作らなくては行けないと強く思って下さったのだと思います。また、昔、山口大学に在籍中に同僚の女医さん達の大変さをみかねて、女医の会を作ったらどうかと声かけしたところ、男女の区別など考えて働いていないと、たいそう女医さん達に怒られてしまいましたと、心優しい山本院長ならではのエピソードも語られました。そして将来男女にかかわらず、働きやすい職場になって、女医の会が発展的に解消していくことがのぞましいと述べられました。こんなに女医の気持ちが分かっている方がおられるのだと、大変感動して、再び泣きそうになってしまいました。

次に、山口大学医学部附属病院特命教授医療人育成センター副センター長 総合診療部部長（兼任）黒川典枝先生による「山口大学医学部附属病院 医療人育成センターの果たすべき役割～若き医師を育てたい！～」でした。45歳未満の医師数は平成10年を100とすると山口県は平成24年では77.7%と減少の

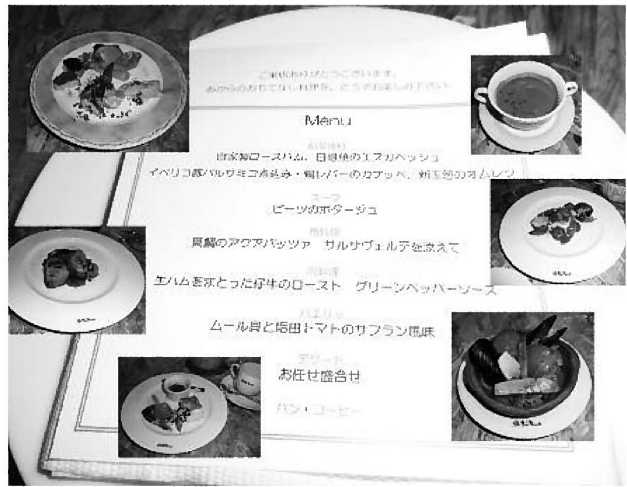
一途だそうです。そこで山口県に一人でも多くの優秀な医師を確保するとの使命を受けられたのが黒川教授です。黒川教授は医学生ならびに研修医や専門医の支援、地域医療支援、男女共同参画支援など様々な分野に幅広くかかわっておられます。そのお仕事的一端をお話下さいました。まず医学生に対しては個別面談、協力病院へのバスツアー、学内で協力病院がブースを開いて様々な質問に答えるキャリアナビゲーション等が行われていると紹介されました。次に研修医に対しては研修医の幅広い知識習得のための木曜プロフェッサーセミナーや専任教員によるメンタル及び進路相談の実施、学会参加や発表の支援、研修生活支援のための研修医専用施設（白翔館）の充実などをあげられました。現在の大きな課題は新たな専門医制度に対応した研修制度の構築だそうです。地域医療支援としては、修学資金賞与とそのキャリア支援や地域医療研修の実施が行われているそうです。賞与中の学生総数が平成26年度は92名に達し、平成22年度からは順次勤務を開始していて、今後の活躍が期待されます。男女共同参画においては、黒川教授は山口県医師会男女共同参画部会部会長も務めておられますので、大学、医師会、行政と連携した、学生をふくめた幅広い女性医師支援を可能にしておられます。

学生の相手が一番大変と明るく話されておりましたが、お聞きしただけでも目の回る様なお忙しさです。実際は難しい問題が山積みでさぞ大変な毎日ではないかとお察しいたしますが、その大変さを感じさせない、いつもの素敵な黒川教授でした。

続いて寺井佳子先生による乾杯が行われ、懇親会が始まりました。まずは五種の前菜盛です。自家製ロースハム、白身魚のエスカベッシュ、イベリコ豚バルサミコ煮込み、鶏レバーのカナッペ、新玉葱のオムレツ。次はビーツのポタージュスープ。初めていただきましたが、味だけでなく眼でも楽しめました。続いてメインの魚料理と肉料理です。真鯛の

アクアパッツァ サルサヴェルデを添えて、生ハムをまとった仔牛のロースト グリーンペッパーソース。そしてパンだけでなく今回はムール貝と垢田トマトのサフラン風味のパエリアができました。最後に別腹のデザート盛り合わせとコーヒーです。やはりデザートは欠かせませんね。会費3,000円とは思えない豪華さでした。飲み物にアルコールなしですが、食事をしながら、いつものように、ガールズ(!)トークで盛り上がりました。詳細はもちろん秘密ですが、皆さんが大変な毎日のエピソードを軽く笑い飛ばしながらお話くださると、思わず共感して笑っているうちに元気をもらいます。今回参加して下さった小野田医師会の長澤英明副会長からのご挨拶を懇親会の途中で頂戴いたしました。今年は新しく山陽小野田市民病院の藤田先生や長澤先生に加わって頂き大変嬉しく思いました。一方で女医の研修医の先生が少なかったのがすこし残念でした。また来年もこの会を通じて、緩やかに顔の見える横へのつながりが広がり、情報も伝わっていけばいいなと思っております。

この会は勤務医の先生方のご協力がないと



成り立たないものです。今回も大変お忙しい中多くの勤務医の先生が参加してくださり、大変感謝いたしております。また準備委員の皆様、ならびにジョイ皮膚科の先生方には開催にあたり多大なご協力を頂き誠にありがとうございました。

最後になりましたが、今年も小野田医師会ならびに厚狭郡医師会の皆様のご支援によりこのような会を開催することができました。この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

(いとう眼科クリニック 伊藤 忍)

